

(様式1・小学校用①)

# 令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚小学校

(令和5年2月28日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 徳育……やさしく (思いやりのある子) 体育……つよく (たくましく粘り強い子) 知育……かしこく (進んで学ぶ子)	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○全職員の「熱意・誠意・創意」を結集させ明るく笑顔かがやく元気な学校づくりの推進 ・知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ・幼保小中一貫教育の推進 ・生徒指導、教育相談活動の充実といじめの根絶 ○子どもたち一人ひとりを大切にした教育の推進 ・学力向上、体力向上の取組の充実 ・自他の命を大切にす指導 ・学校運営協議会の推進 ・家庭地域との連携「8が付く日は谷塚の日」	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○ICTの職員研修を通して、全児童がタブレットを活用した、主体的な学習を展開することができた。 ○教材費他、集金作業を見直し、事故防止、職員負担軽減に繋げることができた。 課題 ●谷塚中学校区幼保小中一貫教育を一層推進させ、中学校の共通理解のもと児童生徒の育成を図る。 ●学校運営協議会を充実させ、地域への啓発と学校応援団の組織体制を構築する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員の参画意識のもと、組織が一体となり、目指す学校づくりが推進できた。 ○教職員の適材配置のもとで、機能的・能率的に運営され、学校経営目標が達成できた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○全員の教職員が授業の研究に関わることで、授業改善が図られ、着実な成果を上げた。 ●研修の課題の共通理解を図り、次年度に向けた取組みの明確化を図ること。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○感染症拡大策を徹底し、教育活動を進めることができた。 ●避難訓練の在り方について、再考し、有事の際の意識を高める必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報や会計処理の管理体制が校内管理規程に基づいて周知徹底が図られ、適切に行われた。 ○施設設備等の点検が適切に行われた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校運営協議会の意見を目指す教育活動に活かし実践できた。 ●学校応援団・PTAとのさらなる連携を充実させるため、定期的な確認が必要である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校教員との連携した指導を進め、学びの継続を意識させることができた。 ●中学校区での統一した考えのもと、小中一貫教育の推進に係る取組の充実を図る必要がある。

(様式1・小学校用②)

草加市立谷塚小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
----	------	-------	----	---------------

II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>・教育計画の作成</li> <li>・教育活動の評価</li> <li>・目標、方針の周知</li> <li>・授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科領域等の教育計画のPDCAサイクルを確実に実行し、次年度へ繋げることができた。</li> <li>○年間行事計画の見直しの徹底し、効果的な教育活動を推進した。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を活用し、欠席児童に対しても、学びを止めない姿勢で授業を進めることができた。</li> <li>●一人一人の児童の課題把握を徹底し、基礎学力の向上を図る必要がある。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の作成</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・道徳実践力の育成</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> <li>・いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な教科道徳の研修や指導を統一することにより、道徳教育の充実が図られた。</li> <li>○道徳の授業のねらいを明確化させ、児童の道徳的実践力を高める研修ができた。</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・各教科、道徳教育との関連</li> <li>・中学校との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の時間のE-timeを充実させ、児童に外国語を親しませることができた。</li> <li>○各担任がALTと連携し、外国語活動におけるコミュニケーション能力を育むことができた。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・学級活動、学級経営</li> <li>・学校行事</li> <li>・児童会活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8の付く日「谷塚の日あいさつ運動」やいじめ根絶運動を谷塚中学校、地域青少年育成委員会との連携が図れた。</li> <li>○児童会活動を工夫し、状況に応じた形で、様々な活動を行うことができた。</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導計画に基づき、ICTの活用により、学習内容を充実させることができた。</li> <li>●指導計画を見直し、体験活動の機会をさらに充実させていかなければならない。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、児童理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導委員会で生活目標や通年目標の取組みの評価を行い児童への意欲化を図った。</li> <li>○いじめを含めた問題行動に対する早期発見早期解決の組織体制を整え、解決できた。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・中学校との連携</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・家庭、地域との連携強化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗り入れ授業や中学校進学へ向けた体験授業を生かしたキャリア教育の充実が図られた。</li> <li>○外部から講師を迎え、児童にとって、実際の職についての思考を深めさせる機会を作った。</li> </ul>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援を要する児童の実態を把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めることができた。</li> <li>●特別支援教育について保護者にもっと理解してもらえよう、情報提供が必要である。</li> </ul>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビブリオバトルの開催等を通し、児童の読書に対する意欲を高めることができた。</li> <li>○発達段階に応じた種類の本を児童に読ませるなど、読書の質の向上を図ることができた。</li> </ul>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット使用の頻度を高め、授業改善と児童の学習意欲の向上をさせることができた。</li> <li>●クラス間でタブレット使用の差が出ないように、研修を継続させる。</li> </ul>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権作文及び人権標語の取組みや教職員の夏季研修会を通して人権感覚の育成の充実を図ることができた。</li> <li>●人権教育について外部人材を活用した効果的な研修が必要。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①一貫教育推進と学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・言語活動の充実</li> <li>・自ら学び豊かに表現する力を育てる授業</li> <li>・主体的に運動する授業の実践</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「やつカード」「家庭学習週間の取組みカード」谷塚中校区で連携して実施した。</li> <li>●校区の子どもの実態を把握し、目指す子ども像に近づける手立てについての取組を深めなければならない。</li> </ul>
	②豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動の推進</li> <li>・いじめゼロプロジェクト</li> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・体験活動の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修の柱に道徳教育を立て、外部指導者のもと、全教職員が指導力向上を図った。</li> <li>○代表委員会が主体となる運動のもと、いじめ根絶の意識が全校児童へ図られている。</li> </ul>
	③学校運営協議会の活用と地域力を生かした教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの推進</li> <li>・地域との連携を深める取組の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校公開・授業参観等を通して、教育活動について理解してもらうことができた。</li> <li>○本校の学校課題解決に向け、保護者、地域の力を活用する策を講じる話し合いができた。</li> </ul>

<p><b>5 総合評価</b> (学校関係者評価を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくりの具現化を図り、全教職員でチーム谷塚小の団結力を生かし、積極的に教育活動に取り組んだことにより、生徒指導の充実と学力の向上に繋がった。</li> <li>・ビブリオバトルの開催等、児童に読書のおもしろさを伝え、読書に対する意欲を高めることができた。</li> <li>・支援を要する児童の実態を把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めることができた。</li> <li>・タブレットの効果的な活用方法の研修を深め、さらに主体的学習を展開できるようにする。</li> <li>・谷塚中学校区15歳の目指す児童像の達成のための授業改善に努めるとともに、一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を育成する教育の充実に向けて、教師の指導力の向上や指導体制の工夫改善をより一層図る必要がある。</li> <li>・学校運営協議会、学校応援団等の地域力をあらゆる教育活動に活かした組織体制づくりを再構築し教育活動において、PDCAサイクルでの徹底した見直しを図り、改善すべき点を明らかにする。</li> <li>・子どもたち一人ひとりを大切にする笑顔かがやく元気な学校づくりを目指し、全教職員が一丸となった学校教育の実現を目指すことが不可欠である。</li> </ul>
<p><b>6 次年度の改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・谷塚小学校児童の体力についての課題を共通理解し、一人一人の教職員の授業力を身につけ、児童の体力向上を図っていく必要がある。</li> <li>・各教科における谷塚スタンダードの取組の改善を図り、学力向上と授業規律の更なる充実を図る。</li> <li>・教育相談体制の事例研修等の定期的な実施及び関係機関との連携、教員のカウンセリング力の向上を図り、必要とする児童に支援できる体制を構築する。</li> <li>・谷塚中学校区幼保小中一貫教育を一層推進させ、中学校の共通理解のもと児童生徒の育成を図る。</li> <li>・学校経営方針の実現に向けて、教職員の具体的目標の指標を自己評価シートに記載し、教科指導・生徒指導・校務分掌等にて目標達成及び貢献できるように組織の一員としての更なる達成を目指し学校教育力の向上を図る。</li> </ul>